

匠の技術にふれたくて知っているようで知らないものづくりの現場を訪ねました。

大人の社会見学

時代、竹田城
主だった赤松
広秀が漆器作
りを奨励し、同市神子畑みこぼたの木地師きじしを
呼んだことが始まりとされている。

家具の産地・朝来市 竹田 オーダーメイド家具

約400年の歴史がある竹田の家具作り
職人が丹念に作り上げる伝統の技
自分だけのオリジナル家具を作ろう

約400年の歴史を誇る朝来市和田山町竹田の家具作り。安土・桃山時代、竹田城主だった赤松広秀が漆器作りを奨励し、同市神子畑みこぼたの木地師きじしを呼んだことが始まりとされている。

江戸時代末期から木製家具の生産技術を導入し、幾多の変遷を経て、昭和30年代頃から婚礼家具の産地として広く知られるようになった。

しかし、ライフスタイルの変化から婚礼家具の需要は少なくなり、最盛期には約200人ほどいた職人も、今は数えるほどしか残っていない。

そんな中、兵庫県の特産物に指定されている技術と伝統を守ろうと、職人の手による家具作りが現在も

続けられている。

今回、取材をした老舗の太田家具も、手作りにこだわる家具店のひとつ。店舗に併設された「匠の工房」と呼ばれる工場では、3名の職人が注文家具の製作に励んでいる。

「婚礼家具が伸び悩む中、原点に戻ろう、よそにはないものを作ろう」と思いましたとは、太田博文社長。子供の頃、家の裏でたくさん職人が働いていた姿を思い起こし、15年ほど前からオーダーメイドによる家具作りを本格的に始めた。

注文を受けると、図面作成から製作、仕上げ、アフターサービスまで一人の職人が担当。イメージに合った家具が作れると、客の反応も上々だ。

機械による作業もあるが、細かい

部分ではノミやカンナなどを駆使し、手作業で行われる。なるべく国産の木材を使うように心がけ、頑丈で木のぬくもりが感じられる製品は、職人の心が伝わってくるようだ。

「お客さんがイメージ通りだと喜んでくれた時が一番うれしい」とは、職人の共通意見。お客さんには自由な発想で、注文してほしいという。

「ハート型の引き手を作りたいという注文がありました。悪戦苦闘しましたが、なんとか思い通りの形に。職人が思いも付かないアイデアに驚かされることもあり、僕らも成長できます。無茶な注文も大歓迎ですよ。」

世界にひとつしかない自分だけの家具。竹田の家具では、本当の豊かさを手に入れることができる。



DATA

■太田家具 *朝来市和田山町桑原557
*8時半~18時・水曜日 TEL.079-672-4111

舞鶴自然文化園 アジサイ展

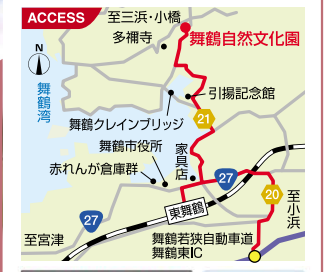
◆6月13日(土)~30日(火) 9:00~16:30 入場無料

6/28(日)イベントデー

- ◆お茶席 10:30~ / 100円 / 先着250名
- ◆土産物テント市 10:00~ / 売り切れ次第終了
- ◆ネイチャーゲーム 10:30~ / 小学生以上 / 先着20名

ひと目5万本のアジサイ園

~見頃は6月中旬~7月上旬~



(財)舞鶴市花と緑の公社 京都府舞鶴市宇多禰寺(たねじ)24-12 TEL.0773-68-1187 <http://www.city.maizuru.kyoto.jp/hanamidori/>



人正11年頃の姿へと忠実に復元された永楽館(左)。明治34年の完成以降、歌舞伎などの芝居興行から映画時代に移り変わるにつれて、幾度となく増改築が繰り返されてきた。復元に当たっては、増改築の工事許可を得るために届け出された図面などを元に痕跡調査が行われた。2階外側の窓枠は、和風建築に似つかわしくない洋風窓が復元されている。これは旧弘道小学校から転用されたものと調査により判明し、当時のまま忠実に水色の窓枠へと復元された。「出石町史」にも「この窓は人変印家的によく目立ち、人々の記憶に残った」と記されている。

但馬アーカイブ

2枚の写真から過去・現在・未来を探る

いずし えいらくかん 出石 永楽館

(豊岡市出石町柳)



復元工事前の永楽館(昭和30年代末期)

■永楽館 *豊岡市出石町柳17-2 *大人300円・学生200円・中学生以下無料、9時半～17時(入館は16時半まで)、第2・第4木曜・年末年始 TEL.0796-52-5300

創建当時の姿へと忠実に復元された永楽館 復元に当たっては綿密な痕跡調査が行われた。

昨年7月、平成の大改修により蘇った豊岡市出石町の芝居小屋「永楽館」。工事では、芝居小屋としての舞台機構が最も充実していた大正11年頃の姿へ忠実に復元された。

文化財の復元では、「復元」ではなく、「復原」の文字があえて使われる。

当時の図面や過去の資料を元にして痕跡調査を行い、根拠を持って元の状態に戻すことを「復原」と呼ぶ。幸いなことに永楽館には、過去

100年間の増改築を記した図面がよく保存されており、工事に先立っては丹念な痕跡調査が行われた。外壁は復原後の姿を左右する大きな要素であり、綿密な調査を実施。

一般的に古い建物の壁は、竹で組んだ骨組みに荒土を塗り、その後、中塗り、上塗りときめの細かい壁土を順に塗って仕上げていく。調査では工程の逆の順番で壁土をはがしていき、構造を探る作業が行われた。

その結果、人目に触れる表側は白漆喰塗りで、見えない部分(東面と南面)は荒壁塗りであることが判明。しかし、さらに調査を進めていく

と、白漆喰で仕上げられた壁の中塗り部分がひどく汚れていることに疑問が持ち上がった。これは中塗り状態のまま長く放置されていたことを示し、後になって白漆喰が塗られたことが判った。

そのため、復原後の表側の外壁は中塗り仕上げとなっている。見落とせば、白壁の永楽館になっていたわけで、ち密な調査に頭が下がる。

また、水色に塗られた2階外側の窓枠も、忠実に復原された部分。土壁に水色の窓と一見アンバランスに感じられるが、「出石町史」には、弘道小学校で使われていたものが転用されたことが記されている。木肌にも青い塗料が残っており、大正時代の永楽館が見事に復原されている。

変わったもの、変わらないものから見えてくる昔の人々の思いや工夫。今回の復原工事では、全ての部材に修理記録の刻印が施されている。永楽館を愛する人々の気持ちは、100年後の未来へと引き継がれていくだろう。

協力：豊岡市教育委員会出石分室
参考資料：永楽館復原工事報告書

人生のさまざまなシーンの“きもの”をご提案します。

夫婦で団欒

きものセレクトショップ

夏には浴衣を。 買い物だって気分はいつでも乙女★

お買い物

おしゃれきもの 野木纏家 のぎまとや

京都府京丹後市大宮町口大野173番地
電話:0772-64-2241
営業時間:10:00~19:00 休休日:水曜日
(のぎまとや) <http://www.nogimatoya.jp/>

たまにはお家で仲睦まじく 着物でお食事

着物 木綿備後研 ¥26,500~
帯 タイ麻布ローケツ染 生地代1m ¥1,680

着物 麻越後ちみ ¥42,000-
帯 笠仙 新兵児帯 ¥26,250-

浴衣 笠仙奥州小紋 ¥55,650-
帯 笠仙麻織半巾帯 ¥21,000-

膝パック ¥18,900-
団扇 笠仙 ¥1,890-